下水道管路施設における共通プラットフォーム構築に向けた モデル実証による電子台帳導入効果検証事業（モデル実証事業）の概要

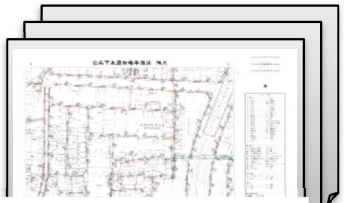
〇下水道管路施設の共通プラットフォーム（標準仕様※に基づく下水道情報を利活用するための共通基盤）の構築に向け、**施設情報や維持管理情報をデジタル化し、電子台帳を導入することによる定量的、定性的効果等を検証**することを目的に、モデル実証事業を実施。　※「下水道台帳管理システム標準仕様（案）・導入の手引き（日本下水道協会）」

〇事業の具体的内容（検証事項）は以下のとおり。

- 電子台帳導入による**日常的な業務の効率化、施設管理の高度化**
- 点検及び調査結果などの**維持管理情報の効率的な入力手法**
- **共通プラットフォームの活用を想定した電子化情報の受け渡し手法**

〇モデル実証による検証結果については、令和4年3月までにとりまとめる予定。

【電子台帳導入による効果検証】



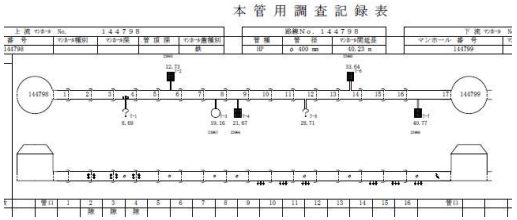
既存紙（アナログ）情報

・下水道管理者が保有する紙情報（アナログデータ）を電子情報化（デジタルデータ化）。

電子（デジタル）情報

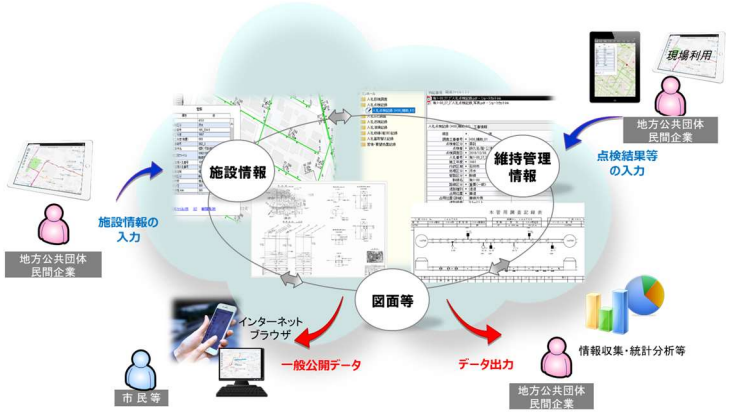
・施設情報と維持管理情報を関連付け、GISを用いた地図上に表示する機能により、閲覧等の日常的な業務の負担を軽減。

【効率的な入力手法の検証】



・巡視、清掃や調査結果等の維持管理情報を職員の負担なく効率的に電子台帳へ入力できるツールや仕組みの検討。

【電子化情報の受け渡しの検証】



・下水道管理者が保有する各種情報を電子情報化した際に、どのように台帳システムへ取り込み、または取り出すことで、効果的な共通プラットフォームの活用につながるかを検証。